海外サイエンスフェア　参加報告

大会名	Taiwan International Science Fair
高校名	愛媛県立西条高等学校
学年	2 年
参加者	新本　友季、横井　良音
指導教員	大屋　智和
発表課題	Synthesize Sodium sesqui carbonate and Increace Yield ~For Recycling Diaper Ash~
大会情報	参加者　284 名（HP より）、　参加国・地域　21 カ国（HP より）
交流した相手校（人数）	台湾（20）、インドネシア（2）、南アフリカ（1）、スイス（2）、ルクセンブルク（2） イラン（1）、ウクライナ（1）、韓国（1）、日本（2）、トルコ（2）、イギリス（1） チュニジア（1）

＜体験記＞

西条高校の科学部は週に 5 日、25 名の部員でにぎやかに活動しています。おむつ班、輝安鉱班、リサイクル班の 3 つのグループにわかれ、それぞれ研究課題の解決に向けて、日々研究に励んでいます。私たちの所属するおむつ班では、花王株式会社と連携し、使用済みおむつゴミから得られるおむつの灰の活用法の確立に向けて研究を進めてきました。これまでの研究結果を踏まえて、今回の推薦募集に応募することができました。夏休みや秋には実験の進捗が遅れていたこともあり、定期テスト前に少人数で活動していた時、いつもより少し嬉しそうな 11 月のある日、顧問の大屋先生が入ってきました。そして、日本代表に選出されたことを知りました。想定外の結果で驚きましたが、とても喜ばしく思いました。

それから 11 月いっぱいは〆切に追われ、 英語での論文執筆やポスター制作に注力する日々が続きました。論文、ポスターは推薦募集前に別のコンテストで準備した日本語の論文をもとに作成しました。昨年にも高校化学グランドコンテストの最終選考会に参加して英語での発表を経験していたことや、もともと英語が苦手ではなかったこともあり、二人で分担しながら楽しんで取り組むことができました。英語の先生や ALT のジャレット先生に作成した論文を読んでいただいてディスカッションを繰り返し、内容構成や表現を身に付けていきました。1 月からは、英語の研究発表もさまざまなアドバイスをいただき、より分かりやすいプレゼンテーションができるよう何度も練習しました。また、大会の数日前には、同じく TISF に日本から参加するもう一校の宮城県立仙台第三高校と連絡を取り、交流イベントの際の日本チームのブース展示の準備を進めました。メインとなる書道体験に必要な道具に加え、日本らしさを演出する装飾や衣装を用意しました。出発直前まで発表練習に取り組み、いよいよ大会を迎えました。

初日（２月６日）は、主に準備でした。ポスターの貼り付け、タブレット端末や実物の展示などの発表に使用するものの検査、開会式で着用する白衣のペイントなどを済ませました。厳格な検査が行われており、会場への出入りや、発表に使用するものの持ち出しなども細かく指定されていました。展示物の後日での追加の許可など、分からないことは審査員の方に聞くと、丁寧に教えてくださりました。夜にはウェルカムパーティーが開かれ、スイスからの参加者と交流しながら参加国各地の料理を楽しみました。台湾の紹介や音楽の発表を見て、台湾の文化に親しむことができました。

２日目（２月７日）は開会式が行われました。様々な方の挨拶や台湾の方々の催し物がありました。午後にはアイスブレークイベントとして、グループワークを行いました。スタッフの高校生も含め国をまたいで 10 人ほどのグループに分かれ、オンライン授業の是非についてグループごとの観点から話し合いました。その後、全体で意見を交換し、多くの参加者と交流することができました。

３日目（２月８日）に審査がありました。審査員は順番に審査して回り、私たちは会場に入ってすぐ審査が始まりました。私たちは、審査員 2 人への発表を 2 回行いました。それぞれ 15 分間で行われ、10 分以内でポスター発表を行い、残りは質疑応答、という時間配分でした。私たちは 2 回とも 10 分以内で発表でき、時間いっぱい質疑応答を行いました。聞き取れない英語もありましたが、繰り返していただいたり易しく言い換えたりしていただいて、的確に回答することができました。分野によっては、3，4 回審査が行われる場合もあったそうです。

４日目（２月９日）は、海外からの参加者全員で観光に行きました。九份、十份を訪れ、有名な景観を楽しむことができました。夜にはカルチュアルナイトというイベントが開かれました。各国の参加者が自国の文化を紹介する出し物企画したブースを展開しました。台湾国内の参加者も集まり、非常に盛り上がりました。日本はブースで書道体験を行い、たくさんの人が書道に挑戦しにきてくれました。書いた文字を手に持ち、法被を着た私たちと写真を撮る人も多くいました。また、折り紙やけん玉など、日本の文化をたくさんの人に知ってもらえました。

５日目（２月 10 日）は一般公開が行われ、国内外すべての参加者が気軽に参加できるポスターセッションでした。ここでは、より多くの方に研究の魅力を知ってもらうために、Ａ４用紙１枚に研究要旨やアピールポイントをまとめた資料と自分たちの名刺を配布しました。それぞれのきっかけで参加者と交流を深めることができ、研究についても知ってもらうことができました。午後には、最後のプログラムとなる表彰式が行われ、入賞者が発表や賞状とメダルの授与がありました。今回は残念ながら入賞しませんでしたが、参加することで世界各国の人たちと研究活動を通して交流を深める貴重な機会となりました。

今回の大会では、参加者同士で交流するイベントや時間がたくさんあり、大会の時間以外でも参加者と話したり食事に行ったりすることができました。また、台湾の高校生が５日間スタッフとして日程に沿って案内してくれ、市内へ出かける際もガイドしてくれました。午前中や夕方でプログラムが終わる日は、彼らと一緒に市内の観光や食事に行きました。英語でのやり取りも不安でしたが、みんな丁寧に話してくれ、様々な国の人と英語を通して交流を楽しむことができました。そして、英語に自信がなくても、自分から積極的に話しにいくことで友達も多くできました。今大会に参加して、世界中の人と互いのハイレベルな研究を聴き合うことができ、科学、そして世界への関心が大きく強まりました。また様々な国の人と交流する中で自分の視野も大きく広がりました。大会に参加するだけでなく、大会を通して感じた興味や感動をそのままに、今後のさらなる学習や将来の進路実現に生かしていきます。